

若手かんがい技術者代表の経験を通して

Y P F 代表
弘前大学農学生命科学部
丸居 篤

「世代交代」、歴史ある組織であればどこでも叫ばれます。I C I Dにおいても例に違わず1993年より略称Y P F (Young Irrigation Professionals Forum) が設立され、灌漑排水に関して①若手技術者の国際的な交流の場の提供、②知識、情報、技術の修得、向上、③I C I D関連活動へ関心を持たせること、を目的に活動が行われています。2年半程、日本のY P F代表を務めまして感じたことを述べさせていただきます。

最初にY P Fに接したのは、はじめての国際会議として2003年のモンペリエ大会に論文発表で参加した時でした。その際に「young」のセッションがあるということでひょっこりと隅に座っておりました。当時はクローズドセッションであり、イランのサラマット議長から「何者だ？出て行け」と言われたのを覚えています。猪迫代表に助け舟を出して頂きオブザーバーとして認められました。当時は10名程度の参加で議長の独演会の様相でした。

その後2011年より、イラン(清水先生の代理)、トルコ、韓国、フランス大会のY P Fに参加いたしました。この4～5年間はメンバーの拡充に力を入れており、オブザーバーや若手以外も歓迎し、毎回20～30名程度の人数でセッションを行っています。議題はメンバーの確認、各国の活動状況、活性化の方法についてで「若手組織の活性化」に尽きます。若手が国際会議の練習をしているという印象を持っています。一方で、I C I Dが若手育成に本気であることは事実で、最近の会議は会長と事務局長が必ず参加し、活性化案を提示されています。最近進んだ事柄として、

(1) 奨学金制度

40歳以下の若手であれば、チャンスがあります。会議への渡航費・ホテル代などが毎年10名以上に支給されています。

(2) 誰でも参加できる

2016年よりWG-Y P FはI C I D-Y P Fと名前を換え、完全にオープンとなりました。今までは各国1名がメンバーとして認められていましたが、40歳以下であれば誰でも参加できるようになりました。

(3) インターネットの活用

インターネットビデオ会議の実施とSNS(フェイスブックとリンクドイン)による連携が図られています。

前述の①の目的を果たすべくプラットフォームがしっかり出来上がった印象を持っています。しかし、「さて、それで何をするのか?」。毎回議論をされます。今後の活動に期待します。

ビデオ会議をした際にわかったことは、各国の代表の方が「YPFのメリット」について各国のメンバー（およびメンバー勧誘）への説明で苦勞していることでした。どの国でも同じなのだと思います、日本での取組みを紹介しました。

日本国内のYPF活動は、農業農村工学会全国大会での会合と年末に行う勉強会です。メンバーは大学や国の研究者、コンサルタント、行政関係者でそれぞれの考えを聞ける貴重な場であると共に、顔と人柄を覚え繋がることのできる有難い場です。勉強会では、各分野から3名が30分程度、苦勞話、裏話を含め内容の濃い議論を行い、ICID等で国際的に活躍された方から「若手を激励」という観点でお話を頂いてきました。過去に講演いただいた方は、荻野芳彦先生（2回）、中村良太先生、佐藤政良先生、太田信介元会長、谷山重孝先生、生源寺眞一先生、島崎和夫先生です。日本は常時15名程度のメンバーではありますが、過去10回にわたり勉強会を実施しており、WG-YPFの中でも「success story」として一目置かれています。もし改善点を挙げるとすれば、国や県等の技術者の方にメンバーになって頂く事ができればより活性化できるのではないかと考えています。

私も世代交代を致します。最後に個人的な感想になりますが、ICIDのYPFを通じまして、企業、研究所、大学、行政の方を知り合いになることができ、また、知識や情報を得るだけでなく、刺激を受け、深い繋がりを持たせて頂いていると実感しております。YPFメンバーの皆様と、快くご講演を引き受けて頂いた先生方、そして事務局の皆様にご感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



2013年勉強会にて 谷山名誉副会長、大田会長、松島副代表
JIID 山中さん、海外室盛永さん、NTCI・福田さん、安西さん（未来の代表）、宗村先生と